

# 市民活動団体 応援コーナー

このコーナーは、毎月1日号で、市内で活動する皆さんの主催するイベントや会員募集を紹介するものです。

掲載申込みの詳細は、市ホームページをご覧ください。

☎広報情報課 ☎983・2620

三島市 市民活動団体応援

8月1日号への掲載の申込みは、6月22日(水)までに、  
広報情報課  
✉kouhou@city.mishima.shizuoka.jp、FAX 983・2719

広報みしま	締切日
9月1日号	7月21日(水)
10月1日号	8月24日(水)
11月1日号	9月22日(水)



◀市民活動団体応援  
コーナー詳細

新型コロナウイルス感染症の拡大防止を図るため、掲載した事業を中止・延期または内容変更する場合があります。

## 三島地区書道連盟展 第31回三島地区展

📅6月8日(水)～11日(土)午前9時30分～午後5時※8日は午後1時から、11日(土)は午後4時まで📍生涯学習センター3階市民ギャラリー📍会員の書展、漢字・仮名・少字数・詩文書・前衛などの作品📍無料📍三島地区書道連盟展事務局・片山☎090・7044・1441

## 混声合唱団みしま 第5回定期演奏会

📅7月10日(日)▶開場：午後1時15分▶開演：2時📍市民文化会館大ホール📍曲目：良寛相聞、バッハのモテットBWV227、少年時代、心の瞳ほか📍▶一般1,500円▶高校生以下500円※全席自由📍若宮☎0558・76・4304、稲村☎0559・57・8484

## 看護職のための再就業研修

📅7月4日(月)～6日(水)午前9時30分～午後3時30分📍三島商工会議所📍最近の看護の動向、感染管理、救急看護、高齢者・認知症の看護など📍看護の仕事をしていない看護職免許保有者📍先着20人程度📍📍6月20日(月)までに静岡県ナースセンター・東部支所☎920・2088

## ボーイスカウト三島第5回 スカウト(男女)募集中!

青少年が「将来自立できる社会人」になることを目指す楽しい教育活動です。専門の研修を受けたボランティアが指導。見学・体験参加も随時受付📍週末月2回程度📍東本町まどろみ公園📍6～25歳までの男女📍鈴木☎090・7439・2325✉info@bsm5.org

### 【申込みの注意事項】

- ・紙面に限りがあるため、掲載できない場合や、内容を省略する場合があります。了承のうえ、お申込みください。
- ・掲載の可否は原稿の確認の連絡をもって代えものとし、掲載不可の場合には連絡しません。
- ・掲載は無料
- ・掲載基準を必ず確認し、了承のうえでお申込みください。

※掲載基準などの詳細は市ホームページ

### 【出演】

月・火曜日

水・木曜日



▲市川りなさん



▲渡辺智浩さん

## Fresh Morning

【毎週月～木曜日 午前7時～9時】

誰かに話したくなる近隣市町のニュースを、選りすぐりの音楽とともにお届けします。朝の支度中、朝活、通勤時間のおともに。入れたてのコーヒーを楽しむような朝を一緒に過ごしませんか。メッセージお待ちしております♪

問合せ ボイス・キュー ☎981・8600

地域にピタッと!

ボイス・キュー  
(エフエムみしま・かんなみ)

【番組情報】



VOICE CUE  
FM 77.7MHz  
http://www.777fm.com



# 歴々の小箱

将軍に献上された三嶋曆

No.408

郷土資料館では6月19日(日)まで、企画展「三嶋曆—武士の世の曆—」を開催中です。

郷土資料館 (楽寿園内) ☎971・8228

今回は、将軍に献上されていた三嶋曆について紹介します。

旧曆とよばれる昔の曆は月の満ち欠けにより一カ月が決まっていたため、ひと月は二十九日または三十日でした。これでは太陽曆の一年とずれが生じるので、その調整に二〜三年に一度うるう月が設けられ、その年は一年が十三カ月になりました。このような曆であったため、曆の制作には高度な天文観測やそれを基にした計算が必要でした。また、曆が朝廷で作られ始めたころはすべて漢字で書かれていました。

これらの事情があったため、平安時代までは曆は貴族や僧侶など一部の人々のものでした。

鎌倉時代以降、武士が政治の中心となっていく、曆の需要が増大します。地方ではより多くの人が読める仮名曆が木版印刷で大量に作られるようになりまし。これを仮名版曆といいま

す。三嶋曆は仮名版曆のなかでは最も古いものの一つであり、鎌倉時代には作られ始めたと考えられています。三嶋は幕府のある鎌倉に近く、三嶋大社は源頼朝や北条氏など有力な武士の崇敬を集めていたことがその背景にあるといわれています。室町、戦国時代には全国的に広まっていたようで、京都では曆一般を「三嶋曆」と呼ぶほどでした。

江戸時代になると、三嶋曆は古い歴史を持つ由緒ある曆として、毎年、徳川将軍に献上されてきました。三嶋曆の曆師であった河合家には多くの古文書が残されており、その中のひとつに「献上勤方覚」という記録が記されています。

それによると、献上の日は毎年十二月十五日と決まっております、それに間に合うように江戸に向かっていたそうです。

毎年十二月八日に三嶋を出発し、十日に江戸に到着します。道中、箱根関所や奉行所、繋がりのある大名など、手続きやあいさつのたびに対応してくれた役人へ曆を贈っています。到着

後は寺社奉行へ届出書を提出したり、持参した曆の装丁や献上台の製作を職人に依頼したりといった準備を進めます。

献上の日の当日は、江戸城の城門前で待機し、開門と同時に登城、若年寄の取次を経て新曆献上となります。

その後、数日江戸で過ごしていますが、取り立てて用事はなかったようです。将軍への献上を無事すませて、ほっと一息ついていたのでしょう。江戸を発つのは十九日になります。朝、寺社奉行所へ伺い、拝領品として銀子三枚を受取って江戸での全行程を終了します。その後の記録はありませんが、ゆっくり三嶋へ帰ったのではないでしょうか。

このように、武士の社会で由緒ある曆として認められてきた三嶋曆ですが、明治時代になると社会の近代化、西洋化の波の中でその歴史を終えることになりました。



▲古文書「献上勤方覚」(個人蔵)

## ぼくの おじいちゃんおばあちゃん

当番 うえまつ かおう さん

僕のおじいちゃん、おばあちゃんは、ゴルフと家庭菜園が趣味です。いつも優しいおじいちゃん、おばあちゃんは農家さん並みの野菜を食べさせてくれます。そして種類も豊富でプロッコリー、トマト、キュウリなどたくさんのお野菜はどれも新鮮でとても美味しいです。

おばあちゃん、おじいちゃん、ステンドグラスとガーデニングが趣味です。ステンドグラスの作品が家に飾ってあります。どれもきれいな物ばかりです。二人とも車の運転には気を付けてください。そして、いつまでも仲良く笑顔でいてください。



植松 風王 (徳倉小 6年)